

K.G. WEEKLY NEWS

■発行日 2015.1.19 No.797 ■発行 関西学院広報室 ■西宮市上ヶ原一番町1-155 TEL 0798-54-6017

講演会『南極観測隊の日常って…?』

～南極の氷に触ってみよう～

普段の生活からは想像できない南極観測隊の日常の話を、自分たちが聞きたい、もっと多くの人に伝えたいという想いで集まった学生有志の団体「南極知り隊」が以下のとおり講演会を実施する。

当日は第54次日本南極地域観測隊越冬隊員として活動した早川由紀子・理工学部化学科契約助手が登場。南極での観測内容や生活など動画を使って紹介する。参加者との交流や越冬隊の服の展示や南極の氷にも触れることができる。※一般参加可、無料、申し込み不要



講演会『南極観測隊の日常って…?』

- 日時: 1月23日(金) 1回目14時～15時 2回目17時～18時
- 場所: 神戸三田キャンパス アカデミックコモンズ シアター
- 問い合わせ: 神戸三田キャンパス事務室 (079・565・7600)

関西学院事典をHPで公開!

関西学院は昨年9月28日に刊行した『関西学院事典(増補改訂版)』に収録の全項目を1月19日に公式HPで公開する。

『関西学院事典(増補改訂版)』は、2001年に刊行した『関西学院事典』を創立125周年記念事業の一つとして17名の執筆委員を中心に教職員・学生・同窓らが加筆修正を施して出版したもの。事典には、関学の歴史や関学に深く関わった人物、施設・設備・建物、組織、学部、課外活動、校章やスクールモットーといった関学の精神などが詳しく解説されている。

幼稚園から大学までを擁する大規模総合学園が自身の事典を出版するのは慶應義塾などの他、ほとんど例がなく、公式HPで公開するのは国内では初めての試み。書籍に掲載されている557項目すべてをHPで閲覧することができる。

Web版『関西学院事典(増補改訂版)』は、50音での検索や、「人物」「組織・役職」「部署」「キリスト教」といったカテゴリからも検索できる。また、書籍には掲載できなかった写真も追加で掲載しており、記載内容も随時更新される予定だ。ひと月ほどで事典内だけを文字検索できる機能も実装される。

執筆委員の一人の川崎啓一・大学博物館総合主幹は、「増補版の編集には3年以上かかった。記述内容はできるだけ最新のものにしたが、時とともに変化する。Web版ではそのつど更新できるのがメリット。歴史的事項も新たな発見があれば改稿していきたい」と話している。内容は、<http://www.kwansei.ac.jp/r/kwangakujiten/>から確認できる。



寒い日も暑い日も 児童を見守り続けた 4年間



教育学部生が近隣の西宮市立上ヶ原小学校の子どもたちのために行っている登校時の安全確保と見送りのボランティアが、13年以上途切れずに続いている。

この活動は2001年6月8日に発生した大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件に衝撃を受けた教育学部の藤木大三教授が、地域の児童の安全に寄与したいと、聖和大学(当時)教育学部の学生たちに呼びかけ、事件からちょうど1ヶ月経った7月8日から始まった。



安田宏平さん(教育学4)

安田宏平さん(教育学部4年)は関学大に入学して間もなく、通学ボランティア活動に参加するようになった。早朝からの活動のため、早起きが苦手な学生たちが活動を続けられなくなり、徐々に参加人数が減っていくなか、安田さんは通学路に立ち続けた。藤木教授は「こんな学生はなかなかいない」と話す。

2年生の冬には足を捻挫し、松葉杖をつきながら児童の登校を見守り続けた。毎朝通学路に立っていることで児童には顔を覚えられ、活動をしているとき以外でも道で出会うと声をかけられるようになった。

4月からは小学校の教員として教壇に立つ。安田さんは「4年間、活動を続けられたことは大きな自信になりました。上ヶ原小学校の児童の皆さんやPTAの方々が開いて下さる『感謝の会』の際にいただくお礼の寄せ書きやメッセージを読んで、頑張れば頑張っただけ、自分に返ってくるものがあると強く感じました。通学ボランティアとして子どもたちと多くふれあった経験は間違いなくこれからの教員生活に役立つと思います。一緒に活動してきた後輩たちには、活動を続け



る中で僕が持つことができたような自信を持ってもらいたいと思います」と話している。

写真は、仲間とともに感謝の会に参加した時